

## 教育再生会議大学院教育改革 「プロジェクトX」検討チーム報告に当たって（案）

世界に開かれた「美しい国、日本」は、「知識基盤社会」である 21 世紀に、グローバルな競争と協調の中で発展しなければならない。資源に恵まれない我が国が、欧米先進国のみならず躍進著しい BRICs に対し確固たる競争力を維持すると共に、人類の持続的発展に貢献するには、イノベーションを生み出す高度な専門的人材や国際的に活躍するリーダーの養成が急務である。

我が国の教育は 6 - 3 - 3 - 4 制では終わらない。大学の学部教育の水準向上に加えて、その先の専門に応じた「X年の大学院教育」こそが、国際社会を生き抜く直接的な原動力である。理工・医・人社系などすべての分野において高水準の教育が求められる。現にアメリカの卓越した国際競争力の源は充実した大学院教育にある。我が国が国際社会における責務を果たすためには、この大学院教育の質を一層充実させる必要がある。

我が国の大学院は、近年急速にその規模を拡大し、さらに大学院重点化措置以降、主要な国立大学教員の主務は学部から大学院へと移行した。この移行は、同時に大学院教育の質の転換を前提とするものであったが、教育の質については依然として顕著な向上が認められない。

我が国の大学院は「研究重視」、「教育軽視」の風潮の中、個々の研究室での極めて狭い領域の研究指導に偏り、組織的な教育の場が用意されていない。そのままの形で規模拡大が行われた結果、「知」の極端な細分化と断片化が進行し、社会との需給関係のミスマッチを生んでいる。また、教員組織の「学閥」と、大学院と学部との間の連続的な縦割り構造による学部生の「囲い込み」、さらに、大学院の理念、課程、入試などに関する情報が乏しいことなど、流動性を阻害する体質も少なからず残っている。実際、理工系では平均して大学院生の 8 割以上を自校出身が占めるなど、他大学や他分野の学生、社会人、外国人に広く門戸が開かれているとは言い難い。

「知」に国境はない。現代社会は熾烈を極めるグローバルな頭脳獲得競争の渦中にあるが、我が国はこの潮流から遅れ、有能な学生の一方的流失を招き、知の空洞化をもたらすことがあってはならない。我が国に求められることは、世界第 2 位の経済規模に見合った数の、教育・研究両面において競争力をもった世界に開かれた大学院の構築と、知識基盤社会の多様な要請に応える大学院教育の抜本的改革である。また、学生の「囲い込み」を無くし人材の対流を生み、学生が真に自らの将来を見据えて大学院を選択できる環境である。

大学院改革の鍵は「国際化」、「個性化」と「流動化」である。大学院自らが理念と目標を明確にし、各々の個性を活かしつつ教育の質の格段の向上に真摯に取り組むことが必要である。国内外における学生の流動化促進は、我が国全体の大学・大学院教育の活性化を生む。青少年を受験競争の重圧から解くとともに、意欲ある学部学生には知的緊張感の維持と新たな進路への「再チャレンジ」の機会を与える。加えて、多様な大学院生の切磋琢磨は視野の拡大による大きな教育効果をもたらす。

大学院は、研究社会のみならず、政官界、法曹界、経済・産業界、医療界など社会のあらゆる知的セクターとの接点である。質の向上のための取組を前提に、先進国の中でも極めて低い公財政支出の拡充など、大学院教育を支える財政基盤の抜本的強化に政府が一丸となって取り組むとともに、産業界、地域社会などとの連携のもと、「社会総がかり」で改革が断行されることを切望する。

大学院は、課程の種類や分野により年限及び体制は多様である。今後は、専門家の意見等を伺いながら、医療系、人文社会系等の大学院教育改革、大学院への財政支援などについて議論を深めてまいりたい。

## ．世界レベルの大学院教育

大学院を世界最高水準の教育拠点として形成することを強力に支援する。社会経済のグローバル化が急速に進展する中、我が国の高等教育の国際化は諸外国に比べ著しく遅れている。国際対応が可能な大学院教育システムの充実及び学位の国際的信頼性を確保する。

- 1．国際的に高水準の学生獲得と第一級の教員招聘による世界に卓越した大学院教育拠点の形成を強力に支援する（国内外の最高の人材を惹きつける待遇と教育研究環境、国際人材のため宿舎をはじめとする基盤整備と都市インフラの強化を行う。国際的なリクルーティングのための体制を整える。教員は国際公募で採用する。英語による授業を充実する）
- 2．9月入学を促進する。
- 3．国際的な大学間連携強化を支援する。
- 4．海外の大学院との国際連携プログラムにより複数学位授与を促進する。
- 5．ODA 予算を活用し、中国・インド等の優秀な留学生・研究者の受入れを推進する。
- 6．教育機関が民間からの寄付を受けやすくするための特例的優遇税制を導入する。
- 7．専門分野別認証評価を推進し、評価結果等を国際的に公開する。

## ．国内外に開かれた大学院教育

国内外に公正かつ広く開かれた大学院入試を実施し、柔軟に教育研究課題を選択できる仕組みを構築する。また、優れた大学院生が勉学に専念できる経済的支援を拡充する。受験競争や経済的事情等により、意欲ある学生の大学院進学道が制約されないようにし、「囲い込み」を無くす。

- 1．個々の大学院の理念、目標、課程、入試等に関する情報を国の内外に提供する体制を確立する。
- 2．国内国外の学生を問わず優秀な意欲ある大学院進学者に対する経済的支援を拡充し、アシスタントやフェローとして積極的に採用する。研究者や大学等の機関が競争的資金から学生に奨学金を払えるようにする新たな仕組みを創設する。
- 3．他地域の大学院に進学する学生に対し、追加的奨学金を支給する。
- 4．大学院入試は、論文・研究計画書の重視や学外試験委員の参加などにより、国内外に公正に開かれたものとする。

5. 一連の施策により、大学院重点化の対象であった国立大学を念頭に、大学院学生の多様性を確保する。優れた外国人学生のリクルートに努めると共に、同一校の同一分野出身者の大学院生が最大多数とならない状態（最大限3割程度）を目指す。

### ．知識基盤社会の多様な要請に真に応える大学院教育

21世紀の知識基盤社会に我が国が科学技術、産業のみならず、経済、外交、政治、医療など様々な分野で、国際社会を先導するために、深い専門性とともに幅広い視野、さらに課題設定・解決力、独創性を持ったリーダーを育てる。そのために、大学院教育の抜本的な改革を推進し、これと連動して、学部における文理両面の教養教育を強化する。

1. 大学院は、国内外の多様な学生に対し、学部の延長ではない体系的、組織的な教育を徹底して実施し、専攻分野のみならず関連分野の基礎的素養や幅広い視野を修得させる。
2. 論理的、科学的思考力や課題探求力、対話力、英語力、創造性や感性、哲学、文学、歴史といった人間的素養などを涵養する文理両面の教養教育を、学部教育の基礎として強化し、知の大きな体系を見せる。
3. 社会の多様な要請を踏まえ、専門分野別に研究者養成、高度職業人養成、知的教養人養成など各大学院の性格・機能を明確にするとともに、流行にとらわれず、特色ある分野を尊重しながら、長期的な視点に立って大学院の個性化を推進する。
4. 博士前期（修士）課程はコースワークの確実な修了と個別研究指導で充実させる。分野の特性に配慮しつつ博士前期（修士）課程は3年とし、これに続く博士後期課程は2年とすることを可能にするなど弾力的な制度にする。
5. 分野の特性に応じ、早期卒業制度を活用した大学院進学には、学部に於ける卒業研究等を不要とする等、当該制度による大学院進学を積極的に推進する。